



音 × AI の スペシャリスト

人工知能を活用して音を可視化する

【補足資料】イチBizアワード受賞対象事業

— 音×地理空間情報×AIによる漏水検知プロジェクト進捗 —

2026年2月13日

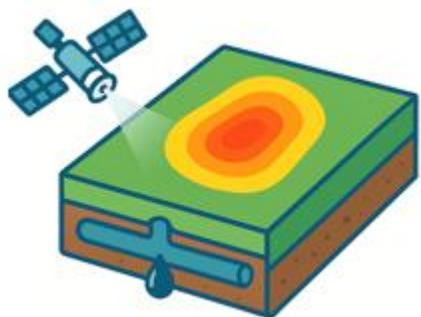
【本事業が目指す姿】

水道管や環境データ等による広域的なリスクエリア抽出に加え、地上でのAI音響解析を組み合わせることで、広域からピンポイントまで一気通貫でスクリーニングする新しい手法の確立を目指します。

音響AI×衛星データによる次世代漏水検知でスマートインフラ管理

【STEP1】

管・環境データで広域リスク推定



管・地理空間データ等の状況から
漏水リスクが高いエリアを面で把握

【STEP2】

音響解析AIでピンポイント漏水検知



漏水特定の聴診技術をAIで再現し
音の特徴から漏水の兆候を捉える

【STEP3】

解析サイクルで高精度漏水検知



漏洩箇所を正解データとして利用し
高リスク地域の選別条件を解析

【本事業がもたらす副次的効果:インフラ管理DX】

紙の工事台帳や水道管情報等が個別管理されており、データ同士が結びついていない状態にありました。
本事業により情報がデジタルで一元化されると、インフラ管理が効率化し、より良い判断が可能になります。

日本経済新聞

老朽下水管の点検に人材難の壁、広域連携の動きも
埼玉陥没事故1年

2026年1月28日 5:00



事故現場となった県道交差点周辺は現在も通行止めが続く（1月、埼玉県八潮市）

2025年1月に埼玉県八潮市で起きた道路陥没事故から28日で1年となった。上下水道の老朽化に起因するトラブルは全国各地で後を絶たず、点検頻度を高めるなどの再発防止策が検討されている。保守を担う人材をどう確保し、生活インフラを維持していくか。事業の広域連携など、国や自治体の手探りが続く。

マンホールのふた大型に 機器使用で老朽管の点検効率化、
国交省

2026年1月28日 18:40



下水道の点検のためマンホール内に入る作業員（2025年2月、名古屋市）=同市上下水道局提供・共同

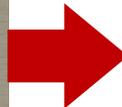
国土交通省は、マンホールのふたや穴を一回り大きくするよう、地方自治体など下水道管理者に促す方針だ。老朽管の点検で人が入らなくても済むように、カメラ搭載機器を搬入しやすくする。年内に指針を改定し、効率的で安全な作業につなげる。

【現地での音データ収集】

- 自治体・調査会社の協力のもと、現地で音データを収集
- メーター周辺や路面部等、実際の調査環境で録音を実施
- 収集した音データは、判定ロジックの構築・検証に活用



現地調査で使用している音収集機材の例

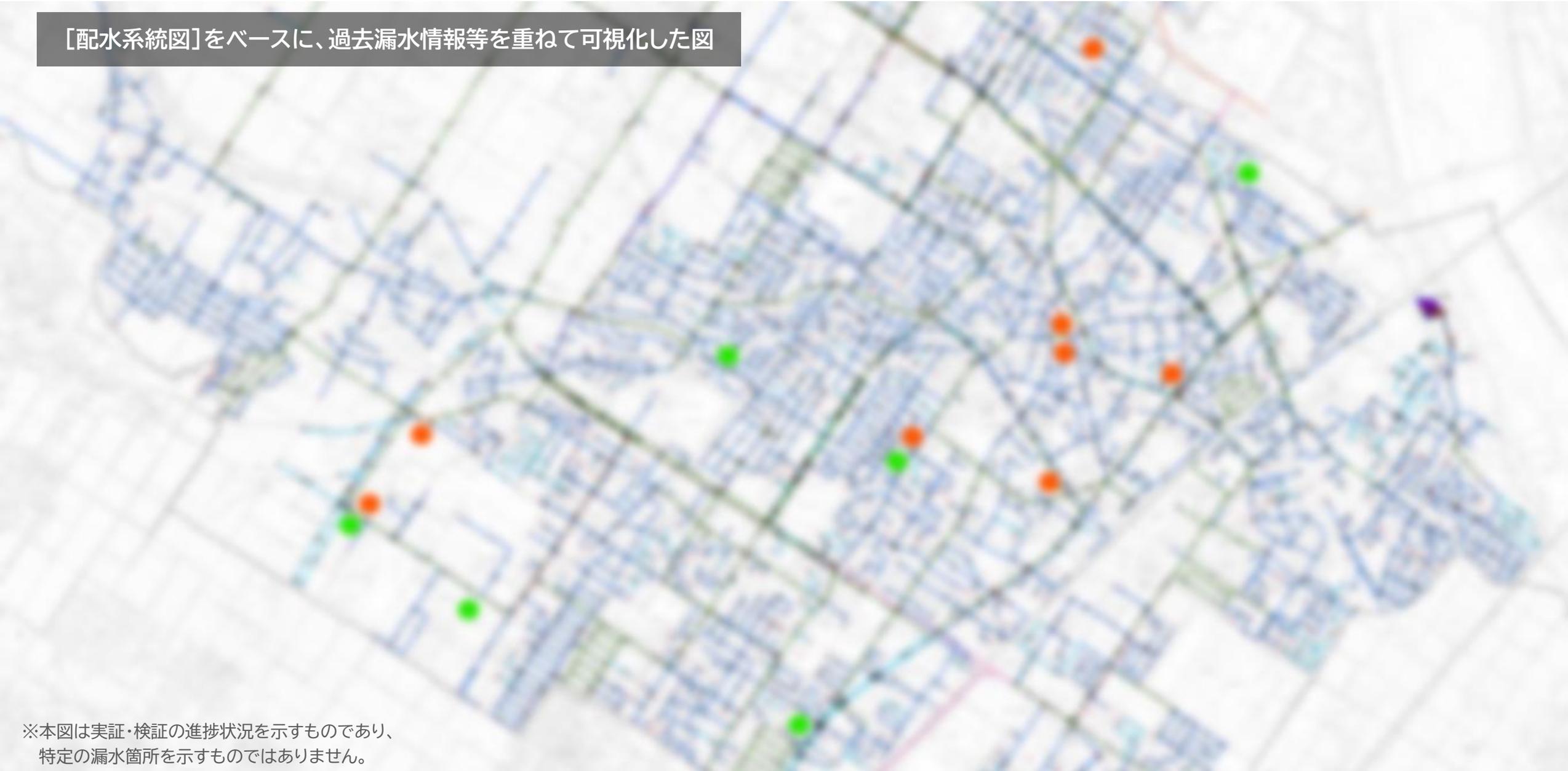


※本取組は実証・検証を目的としているものであり、個別の漏水有無を断定するものではありません。

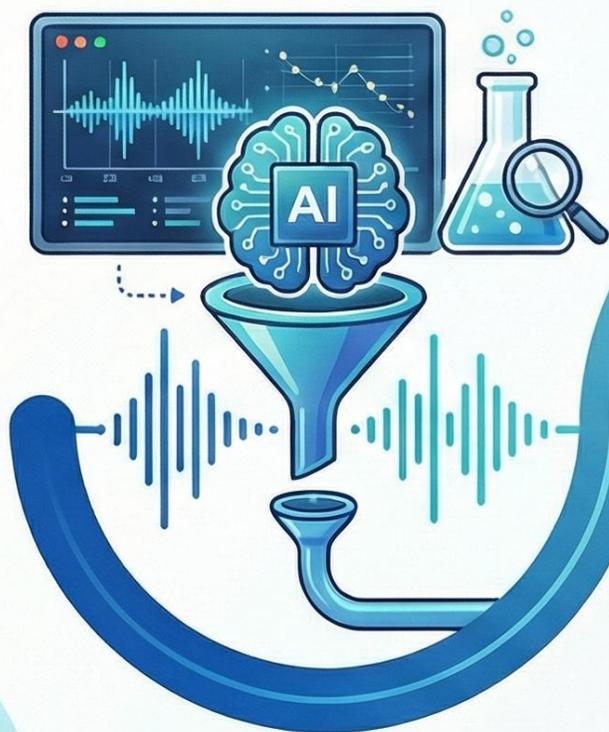


配水管における調査優先度エリアの抽出

[配水系統図]をベースに、過去漏水情報等を重ねて可視化した図



※本図は実証・検証の進捗状況を示すものであり、特定の漏水箇所を示すものではありません。



フェーズA: 基礎検証

過去の実データを用いて、AIが漏水と非漏水を高精度に判別できるかを確認する。

【完了】



フェーズB: 専門家の納得形成

AIの判断を専門家が評価・比較し、その経験則をロジックに反映させて信頼性を高める。

【実施中】



フェーズC: 現地実証

実際の現場でAIが絞り込んだ候補箇所を、調査員と共に検証し、実用性を示す。

【次フェーズ】



フェーズD: 本番検証

AIが「漏水可能性大」と判断した箇所を実際に掘削し、漏水の有無を最終確認する。

本番検証は水道工事ではなく、ドリルで穴を開け音聴棒を挿す【確認調査】を想定しております

- 本資料は、当社の事業内容や業績等に関する情報提供を目的として作成されたものであり、有価証券の取得、売却等の投資勧誘を目的としたものではありません。
投資に関する判断は、ご自身の責任にて行っていただきますようお願いいたします。
- 本資料には、いわゆる「将来の見通し(forward-looking statements)」が含まれる場合があります。これらは、現在入手可能な情報および合理的と判断される前提に基づいて作成されたものであり、不確実性を含んでおります。
実際の業績等は、記載された見通しとは大きく異なる可能性があります。
- なお、当社は将来の見通しに関する記述について、新たな情報や将来の事象に基づいてこれを更新または修正する義務を負うものではありません。